

未来^眼とうほく 第18回

「研究の先には人がいる」との認識が重要

東北大学は1907（明治40）年、東京帝大、京都帝大に次ぐわが国で3番目の帝国大学として開学した。その第21代総長に2012年に就任した里見進氏は、今後の東北大学のあるべき方向性を示した「東北大学グローバルビジョン」や、東日本大震災からの復興に取り組む大学の姿をまとめた「東北大学復興アクション」などを次々と公表し、東北大学のさらなる高みを目指して陣頭指揮を執っている。今回の対談では、それらの具体的な取り組みや、総長としての今後の抱負などについてお話をうかがった。

大学が掲げる3つの理念

●町田 日本経済が停滞する現在、グローバル化やイノベーションなどを推進するうえで大学に対する期待が非常に高まっています。そうした中、貴学では昨年8月に

「里見ビジョン」を、今年5月には、そこからさらに踏み込んだ「東北大学グローバルビジョン」を公表されました。まず、貴学が目指す今後の方向性についてうかがいたいと思います。

●里見 本学は、開学以来「研究第一主義」「門戸開放」「実学尊重」の3つの理念を旗印にして、多くの人材を世の中に送り出してきました。私が総長になり、議長がおっしゃったようなビジョンを作成して改革を進めておりますが、基本にあるのはこの3つの理念です。また、本学は今、目指す2つの大きな目標として、「震災後の東北の復興と日本の新生の先導役になる」「ワールドクラスの大学になる」をスローガンにしています。これらについては後ほどお話ししたいと思います。

●町田 「門戸開放」ということでは、貴学は海外からの留学生が大変多いように見受けられます。

●里見 本学の歴史を紐解きますと、東京帝大や京都帝大では当時認めていなかった、師範学校や専門学校の卒業生にも入学を認めたことや、日本の大学で初めて女性を受け入れたことなど、広く門戸を開放してきた特徴があります。これは、当時“東北の片田舎”にあった本学が、東京や京都と同じことをしては良い人材が集まらないという危機感によるものでした。また、本学の留学生では中国の魯迅（帝大前身の仙台医専）が有名ですが、今日なお世界中から広く留学生を集めているのも、こうした門戸開放の流れをくむものです。

●町田 東北大学に進学する学生のうち、東北の高校出身者は43%（平成25年度）と半分以下です。一方、九州大学では九州出身者が68%、京都大学も近畿出身者が52%と半分以上です。つまり、それだけ貴学には全国から学生が集まっているということで、これも門戸開放の一形態なのでしょうね。

●里見 東京大学でも関東出身者が6割以上と聞いています。もちろん、関東地方の人口が4,000万人以上に対して、東北地方の人口は約900万人と、地域人口の違いがありますので一概には言えませんが、それでも本学は全国区の大学であると自負しています。

東日本大震災からの復興

●町田 冒頭でも総長が少し触れられましたが、今から約3年半前、2011年3月11日に、東日本大震災という大変不幸な災害が起きてしまいました。震災では貴学も大変な被害を被ったかと思われます。あらためて当時の状況をお話いただけますでしょうか。

●里見 大規模なところでは、工学系の大きな建物が3棟、まったく使用不能となり、危険なため取り壊しを余儀なくされました。その他にもさまざまなところで建物や実験設備などが損壊し、貴重な研究成果も失われてしまいました。また、春休みで自宅に帰っていた学生も3名亡くなりました。そういう意味では、一時的に大学の機能はかなり損なわれました。

●町田 そうした中で、今日までの貴学自身の復興、また、直接的な被災地を含めた東北全体の復興にどのように取り組まれてきたかについて、おうかがいしたいと思います。

●里見 大変厳しい状況からのスタートでしたが、震災から1か月後の2011年4月に「東北大学災害復興新生研究機構」を設立して、8つの大きなプロジェクトを立ち上げました。また、「復興アクション100+」ということで、学内から募った100を超える小さなプロジェクトを動かしました。震災からの復興と日本の新生に役立つべく、国の予算も意識しながら進めてまいりました。

●町田 非常に素早い動きに感服いたしました。個々のプロジェクトについて詳しくおうかがいしたいところですが、時間の都合もございましてので特徴的なものをご紹介しますでしょうか。

●里見 8つのプロジェクトの1つに「情報通信再構築プロジェクト」があります。当時は全国的にIT化が進んでおりましたので、震災でもスムーズに情報伝達が行われるかと思ったのですが、意外とうまくいきませんでした。情報が錯綜して、逆にいろいろな面で齟齬が生じてしまったのです。今後はそうしたことが起きないように、独立行政法人の情報通信研究機構と本学が連携して研究センターを設置し、災害に強い通信網を研究しています。

●町田 進歩していると思われる技術などがいざ災害に直面するともろさを露呈してしまうことは、今回の震災に限ったことではありません。大変意義深い研究だと思います。

●里見 東北がこれから本当に復興するためには、人が安心して住める環境を整備しなければなりません。そこで、まず重要なのが働く場所の確保です。本学で

はプロジェクト研究を通して起業が活発になり、多くの雇用が生まれるべく一生懸命取り組んでいます。

●町田 「東北大学復興アクション」を拝見しますと、東日本大震災からの復興のために、貴学が大変な努力をされていることが分かります。そのことは逆に、震災から東北が復興するためには、貴学の存在が非常に大きいことを意味するかと思います。

大学の経済波及効果は大きい

●町田 ところで、東北地方は全国に先駆けて少子高齢化、人口減少が進んでいます。こうした面からも、東北地方の復興、発展のために貴学が目指すところをお聞きしたいと思います。

●里見 人口問題に関して言えば、東北地方で現在起きていることは、将来、日本全国に広がっていくことだと思います。そこでわれわれが、持続可能な社会、再生可能な社会のモデルケースを示すことができれば、今後の日本全体のモデルになるのではと考えています。そうした社会を築けるような研究も、本学が取り組むべき課題だと思います。

●町田 2007年に、文部科学省が「地方大学が地域に及ぼす経済効果分析」を報告書にまとめました。本書の事例では、地方国立大学が県内に及ぼす経済波及効果が400億円台から600億円台という結果が示されています。このように大学の存在は地域経済にとっても非常に大きいものがあります。言い換えれば、いろいろ



里見 進（さとみ・すすむ）

1948年那覇市出身。1974年東北大学医学部医学科卒業。医学博士。ハーバード大学研究員などを経て、1986年東北大学医学部第二外科助手、1995年同教授に就任。2008年に日本外科学会が会長制（任期1年）から理事長制（任期4年）に移行した際には、初代理事長として活躍。2011年3月の東日本大震災では、副学長兼東北大学病院長として事態の収拾にあたった。2012年4月に第21代東北大学総長に就任。



町田 睿（まちだ・さとる）

1938年秋田県生まれ。東京大学法学部卒業後、富士銀行に入行。同行取締役総合企画部長、常務取締役を経て、1994年荘内銀行取締役副頭取、95年取締役頭取、2008年取締役会議長を歴任。09年10月よりフィデア・ホールディングス取締役会議長、北都銀行取締役会長、11年6月より荘内銀行取締役相談役、12年6月よりフィデア総合研究所理事長をそれぞれ務める。12年4月より2年間、東北公益文科大学の学長を務め、14年10月に同大名誉教授の称号を授けられた。



東日本大震災時、対策本部で陣頭指揮を執る里見総長（当時病院長）

カ国語、すなわち、日本語と英語ともう1カ国語が必要だと言われておりますが、私は、真に重要なのは語学力よりもむしろ、本人が持つ知識の中身ではないかと考えています。

●**里見** 誤解を恐れず言えば、英語とドイツ語とフランス語とでは、山形弁と秋田弁と青森弁くらいの違いしかありません。文法はほとんど同じで、同じスペルでも発音が違ったりする程度です。議長がおっしゃったように、重要なのは知識の中身です。とはいっても、英語はすでに国際社会の共通語となっておりますので、若い先生方や学生たちには、で

きるだけわれわれの世代が苦労したような思いはさせたくないと考えています。

●**町田** 大変痛快なお話です。ところで日本ではよく、大学院の質の問題が取りざたされますが、世界で戦うためには若い研究者の育成が重要です。それについて総長はどのようにお考えでしょうか。

●**里見** これからは、学歴に見合った実力を備えて卒業できるかが問われる時代になると思います。大卒よりも大学院卒の方が、学力も能力もあり、社会で評価されるようにならなければなりません。欧米はそれが比較的实现されていると思いますが、日本では学士よりも博士の方が就職しにくいといったおかしな現象が続いています。もちろん、本人や企業にも問題があるかと思いますが、大学院が質の高い院生をしっかりと育てて世に送り出していくことも、これからさらに重要になると考えています。

●**町田** おっしゃるとおりですね。

研究の先に人を見よ

●**町田** 大学では現在、組織のトップである学長（総長）の権限を強化する方向に進んでいます。そのための法案も可決されました。今後は、貴学での総長の役割も非常に大きくなるかと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

●**里見** 変化が激しい世の中において、大学もある程度それに即応していく必要があります。そのために、総長の権限を大きくして、組織改編などが早く行われるようにすることは重要です。ただ、大学を企業体と同じにとらえて、総長が大学経営のトップに立つという考え方には賛同できません。本学の理念にある「実

学尊重」とは、すぐ社会に役立つ学問だけを行うという意味ではなく、「どんな学問もいずれは社会に還元するべき」という意味だからです。

●**町田** まったくご指摘のとおりだと思います。国の科学技術予算でも、比較的短期での成果が期待される研究と、長期的な視野に立った研究とに配分が分かれています。

●**里見** 本当に革命的な、社会を大きく変えるような研究は、じっくりと取り組んだ中から生まれることが多いのです。大学に短期的な結果だけを求めることは、国の方向性を誤ることになりかねないと危惧しています。

●**町田** よく分かりました。一方で、総長の権限強化では人材育成のマネジメントも必要かと思えます。医学者でもある総長のご経験から、人を育てるうえで注意してきたことや、総長ご自身が参考となったことがありましたら教えていただけますでしょうか。

●**里見** 医学の研究は、いずれは患者さんに還元するという考えを持たないと、研究が誤った方向に進んでしまう危険性があります。医学の研究を志す者には、人が相手の研究だから常に、「研究の先に人を見なさい」と話してきました。もしかしたら、これは医学に限らずあらゆる学問や研究に対して言えることかもしれません。

●**町田** おっしゃるとおりですね。では貴学の求める学生像についてはどのようにお考えでしょうか。

●**里見** 朝日新聞が全国の高校の進路指導担当教諭を対象に調査する、「大学ランキング」というのがあります。これは、「生徒に勧めたい」「進学して伸びた」「広報活動が熱心」の大きく3つのテーマについて、具体的な大学名を記入してもらうものです。この調査で本学は総合評価で10年連続1位になっていますが、中でも「進学して伸びた」は本学が8年連続1位と、ほぼ定位置を占めています。この結果は大変うれしく、また誇らしく感じます。本学に進学した学生には、大学の恵まれた環境の中で、伸び伸びと勉学や研究にいそしみ、大きく成長してほしいと思います。

●**町田** そうした評価は、教育者冥利に尽きますね。

仙台に来たのは偶然

●**町田** プライベートなお話で恐縮ですが、沖縄ご出身の総長が、どのような志で北国・仙台の大学（東北



東北大学オープンキャンパスの様子。毎年約6万人の高校生が来場する。

大学)に進まれたのか、ぜひおうかがいしたいと思います。

●**里見** 結論から申しますと偶然なのです。私が大学に進学した頃は、沖縄はまだ返還前で、本土（沖縄以外の都道府県）へ行くにはパスポートが必要な時代でした。当時の沖縄の大学進学事情は独特なもので、まず、本土の大学については個別の大学は希望できず、学部ごとに募集枠がありました。医学部は全体で50人くらいでしたでしょうか。そして、今でいう大学入試センター試験のような共通試験を県内で受けて、その成績によって進学大学が振り分けられました。それで、私はたまたま東北大学に進学することになったのです。

●**町田** そうでしたか。仙台での生活はずいぶん長いのですね。率直なところいかがでしょうか。

●**里見** 東北大学に進学した頃は「寒いところに来てしまったな」と思いましたが、40年以上の生活ですっかり東北弁も板につきました。今でも沖縄には2年に1度くらい帰りますが、なんとなく沖縄の方が旅先のような感覚で、仙台に帰ってくるとほっとした気分になります。

●**町田** 最後に、座右の銘がございましたら教えてください。

●**里見** 特にはないのですが、「則天去私」の「去私」という言葉を頼まれて書くことがあります。自分のことを優先しないで、全体を見て客観的に判断すれば、あまり大きな間違いはしないと思っております。それで、何事においても我田引水にならないようにという自分への戒めの意味も込めて、去私という言葉を使っております。

●**町田** 本日は奥深いお話をいろいろお聞きすることができて大変有意義でした。どうもありがとうございました。

な面でこれからは大学が地域をリードしていくべきだと考えています。

●**里見** おっしゃるとおりだと思います。宮城県の村井知事にも、折に触れて「もっと東北大学を使ってください」とお話しています。

●**町田** 貴学には、これからもぜひ東北地方をリードする活躍を期待したいと思います。

世界と戦える大学を目指して

●**町田** 一方で、観点を世界に移しますと、さまざまな機関が“世界大学ランキング”を発表しています。その中で最も権威があるとされるイギリスの教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」が発表した最新ランキングによると、日本では東京大学が23位で国内1位、貴学は165位で、京都大学、東京工業大学、大阪大学に次いで国内5位だそうです。この結果についてはどのようにお考えでしょうか。

●**里見** ランキングを上げるためだけに何かをするというのは、本学のスタンスではありません。そもそも、世界ランキングというのは英語圏の大学が有利になるような指標設定となっています。ランキングの指標となる論文は英語ですから、例えば社会科学や人文科学でいくら日本語の優れた論文を書いても評価されない訳です。一方で、今回ノーベル物理学賞を日本人研究者が受賞したように、世界的に見て日本の大学は、決してレベルは低くありません。したがって、本学の理念でもある「研究第一主義」ののっとり、常に世界と戦える大学になることを意識しながら努力すれば、おのずとランキングは上がっていくと考えています。

●**町田** 同感です。国際社会で戦うには、最近では3